

1 単元について

対 象 学 年	中学校 第3学年
学 習 指 導 要 領	第2学年及び第3学年の内容 B書くこと（1）イ、エ 言語事項（1）ウ、オ
単 元 名	「情報社会への提言 ～説得力のある意見文を書こう～」(全8時間)
単 元 目 標	○自らの意見や考えをいろいろな相手に分かりやすく伝えるために、仲間のよさを見付けたり取り入れたりしながら内容や表現の仕方などを工夫して意見文を書こうとすることができる。 (国語への関心・意欲・態度) ○伝える相手や目的を意識して、自分の意見や考えを明確にして意見文を書くことができる。 (書く能力) ○自分の意見や考えを裏付ける具体的な事実を広い範囲から収集し、確かさや妥当性を視点にして吟味し、より説得力のある意見文にすることができる。 (書く能力) ○自らの意見や考えが効果的に伝わるように語句を意図的に使い分けたり、文の成分の順序や照応に気を付けたりすることができる。 (言語についての知識・理解・技能)
配 慮 事 項	基礎的・基本的な内容の確実な定着の工夫 ○個の学習状況に応じた多様な指導方法の工夫 ・選材、記述それぞれの段階で個の学習状況を学習プリント等によって把握し、個に応じた指導・援助を行う。 ・指導事項を端的に示唆する例文を準備するとともに、例文の問題点について考える時間を十分に確保する。 ○一人一人のよさや進歩の状況の評価結果を学習活動に生かす指導の工夫 ・選材、記述それぞれの段階で個の学習状況を学習プリント等によって把握し交流する中で、そのよさや進歩の状況を具体的に価値付け、広める。 ・考えの交流や相互評価を意図的に位置付け、自分のよさや進歩、課題を明確にとらえることができるようにする。 【言語活動】 意見文を書くこと 【言語意識】 (相手) 同じ中学校の生徒、地域の人や保護者、広く社会一般の人、メディアに関わる会社の人等に (目的) 自分の意見に納得してもらい、情報に関わるよりよい生活を送るために (場面・状況) 校内掲示板、学校報、新聞の投書、会社への手紙で (方法) 意見文の形式で (評価) 納得することができたかどうか相互に交流することで 選択した相手に感想や評価を書いてもらうことで
参 考 資 料	資料1：第1時の学習プリント…単元の導入及び学習内容と目的をつかむために使用 資料2：第2・3時の学習プリント…情報社会の問題に対する意見をもつために使用 資料3：第4時の学習プリント…根拠となる事実や事柄を考えるために使用 資料4：第5時の学習プリント…説得力のある根拠の条件を理解するために使用 資料5：第6時の学習プリント…説得力のある叙述の仕方を理解するために使用 資料6：第6～8時の学習プリント…構成メモや意見文を書き、評価し合うために使用 資料7：第8時の学習プリント…単元の振り返り及び相手からの感想・評価用紙として使用 資料8：第8時の学習プリント…清書用紙として使用 資料9：単元テスト（期末テスト）

2 単元の評価規準

	ア 国語への 関心・意欲・態度	ウ 書く能力	オ 言語についての知識・理解・技能
内容のまとまりごとの評価規準	・広い範囲から必要な材料を集め、立場や伝えたい事柄を明確にし、相手に効果的に伝わるように表現を工夫するとともに、書くことにより自らの生活を振り返って生活を豊かにしようとしている。	・広い範囲から課題を見付けている。 ・必要な材料を集め、それを基に自分のものの見方や考え方を深めている。 ・課題に対する自分の立場、伝えたい事実や事柄を明確にしている。 ・文章の形態に応じて、書き出しや中心部分の展開など適切な構成を工夫している。 ・自分の意見の基となる根拠を明らかにしている。 ・文章の内容が相手に効果的に伝わるように論理の展開を工夫している。 ・自分の書いた文章を読み返し、文や文章を整えて、説得力のある文章を書いている。 ・互いの文章を読み合い、論理の展開の仕方や材料の活用の仕方など様々な観点から相互に検討し、自分の表現に役立てている。	・慣用句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句の意味や用法に注意して書き、抽象的な概念などを表す多様な語句についての理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・相手や目的に応じて文章の形態や展開に違いがあることに気付いたり、文の成分の順序や照応、組み立てなどを考えたりして書いている。 ・単語の活用について理解し、助詞や助動詞などの働きに注意して書いている。 ・共通語と方言の果たす役割などについて理解して書くとともに、敬語についての理解を深め生活の中で適切に使っている。
単元の評価規準	・自らの意見や考えをいろいろな相手に分かりやすく伝えるために、仲間のよさを見付けたり取り入れたりしながら内容や表現の仕方などを工夫して意見文を書こうとしている。	・伝える相手や目的を意識して、自分の意見や考えを明確にして意見文を書いている。 ・自分の意見や考えを裏付ける具体的な事実を広い範囲から収集し、確かさや妥当性を視点にして吟味し、より説得力のある意見文にしている。	・自らの意見や考えが効果的に伝わるように、語句を意図的に使い分けたり、文の成分の順序や照応に気を付けたりして、書いたり推敲したりしている。
単位時間における具体的評価規準	①説得力のある意見文にする方法を身に付けて意見文を書き、いろいろな相手に分かりやすく伝えるという学習に目的をもち、意欲的に取り組もうとしている。 ②意見文を読み合い、仲間のよさを見付けたり取り入れたりして、自分の意見文に生かそうとしている。	①解決の方向性を示す意見や、読み手を引き付けて強く言い切る意見がよいことを理解して、問題点に対する意見をもっている。 ②説得力のある意見文にするためには、逆の立場の意見を想定した、インパクトのある事実に基づいた根拠が必要であることを理解し、具体的な事実を挙げて根拠を考えている。 ③確かで客観性・妥当性のある根拠にすることで説得力をもたせられることを理解して、自分の意見の根拠とした事実や事柄を見直している。	①文末表現や接続語を工夫して意見と根拠を明確に示すことや、相手に効果的に伝わる語句を使い分けることで、分かりやすく説得力のある意見文になることを理解して、意見文を書いたり推敲したりしている。 ②文の成分の順序や照応に注意して、書いたり推敲したりしている。

3 指導と評価の計画〈全8時間〉

時	ねらい	学習活動	評価規準	評価方法	指導・援助
1	○情報社会のもつ問題点に興味・関心をもつとともに、説得力のある意見文を書き、いろいろな相手に分かりやすく伝えるという学習に目的と意欲をもつことができる。	○情報社会についての意見文（例文1）を読み、その意見についてどう思うか、納得できるかどうか、それはなぜかを学習プリントに書く。 ○考えたことを交流し、例文の説得力の弱さに気付いて、説得力のある意見文を書こうという意欲をもつ。 情報社会の問題について、説得力のある分かりやすい意見文を書いて、いろいろな相手に伝えよう。 ○学習プリントを見ながら、「情報社会の問題について、説得力のある（相手を納得させられる）意見文を書き、いろいろな相手に分かりやすく伝える」という単元の目的と学習内容を知る。 ○単元の学習に対する思いを書く。	＜アー①＞ ○説得力のある意見文にする方法を身に付けて意見文を書き、いろいろな相手に分かりやすく伝えるという学習に目的をもち、意欲的に取り組もうとしている。	○観察・発言・学習プリント〈例文の説得力の弱さに気付いて学習プリントに書いたり発言したりしているか、また、これまでに書いた意見文を振り返ったり、情報社会への思いを書いたりして単元の学習への意欲を学習プリントに書いているかを評価する。〉	○第5時で学習する「説得力のある根拠にする条件」に関わる問題点を含んだ例文を提示する。 ○納得できない理由を考え交流させて、根拠の内容に着目して反論することの大切さ、ひいては、反論されない根拠を書くことの大切さに気付かせる。 ○これまでに自分が書いた意見文に説得力があったかどうかを振り返って書くように示唆する。
2・3	○問題の実態や原因を基にして解決の方向性を示す意見にすることを理解し、情報社会の問題に対する意見をもって、それを伝える相手とその方法を決めることができる。	情報社会の問題点に対する意見を持ち、伝える相手や方法を決めよう。 ○各自で意見文を書くためのメディアとその問題点を決める。 ・情報社会を作っているメディアとその問題点を各自が身近なところから考え、交流する。 ○決めた問題点について、その実態や原因を考え自分の意見をもつ。 ・各自で実態や原因を考えて書き出し、同じ問題点に着目した生徒同士で交流する。 ・実態や原因を基に意見を決める。 ○意見に応じて、学習プリントの例を参考に、伝える相手と方法を決める。 ○本時の学習を振り返る。	＜ウー①＞ ○問題の実態や原因を基にして解決の方向性を示す意見にすることを理解して、情報社会の問題に対する意見をもっている。	○観察・発言・学習プリント〈実態や原因の分析を学習プリントに書き、それを基に解決の方向性を示す提案となるように意見をもっているかを評価する。〉	○問題点を見つける観点を示す。 ・送り手と受け手 ・身近な具体的事実 ○問題点を整理して板書する。 ○意見は、 ・解決の方向性を示す提案とする ・最も言いたいことを簡潔に一文で書く ・曖昧にならないように言い切る ・読み手を引き付けるように示す。 ○意見の内容に応じて相手と方法を決めるようにさせる。
4	○説得力のある意見文にするためには、逆の立場を想定した、インパクトのある事実に基づいた根拠が必要なることを理解し、根拠となる事実や事柄を考えることができる。	○例文2を読み比べ、その違いを考えて、説得力のある意見文にするためには、逆の立場の意見を想定した、インパクトのある事実に基づいた根拠が必要であることをつかむ。 説得力のある意見文にするために、事実に基づいた根拠を考えよう。 ○前時に書き出した実態や原因を参考にし、各自の意見の根拠となる事実や事柄を書き出す。 ○本時の学習を振り返る。	＜ウー②＞ ○説得力のある意見文にするためには、逆の立場の意見を想定した、インパクトのある事実に基づいた根拠が必要なることを理解し、具体的な事実を挙げて根拠を考えている。	○観察・発言・学習プリント〈選んだ問題点の具体的な実態や原因を考えて、自分の意見の根拠となるインパクトのある事実や事柄が学習プリントに書いているかを評価する。〉	○インパクトのある事実に基づいた根拠がはっきり示されている例文とそうでない例文を示し、比較させる。 ○400字程度の意見文では、二～三の根拠とそれを説明するいくつかの事実が必要なることを、例文1を使って説明する。 ○学習プリントを回収し、各自の根拠とする事実や事柄を把握する。

5 本時	○根拠に説得力をもたせるためには確かに客観性・妥当性のある事実や事柄を選ぶ必要があることを理解し、確かさと妥当性の2観点から自分の意見の根拠とした事実や事柄が適切かどうかを正しく判断することができる。	○前時に挙げた根拠に説得力があるかどうか考える。 説得力のある根拠の条件を見付けて、自分の意見文の根拠を見直そう。 ○例文3・4・5を順に読み、根拠に対する反論を考えて交流することで、説得力のある根拠の条件を見つける。 ・例文3→想像や予想でなく事実に基づいた確かなものにする。 ・例文4→多くの場合にあってはまる典型的なものにする ・例文5→意見としっかり結びついているものにする ○前時に書いた根拠となる事実や事柄を「確かさ」と「妥当性」の観点から適切かどうか判断する。 ①各自で自己評価を記入する。 ②二人の相手と相互に判断し合い、判断が食い違ったものについては説明し合う。 ③判断できないものがあれば出し合って、学級全体で考える。 ○学習プリントに本時の学習の振り返りを記入し、発表する。	<ウー③> ○「確かさ」と「妥当性」の観点から、自分や仲間が意見の根拠としている事実や事柄を正しく判断し、自己評価をしている。	○観察・発言・学習プリント 〈例文の根拠の問題点に気づき挙げてきているか、また、自分や仲間が意見の根拠としている事実や事柄を相互に説明し合いながら、正しく判断しているか評価する。〉	○根拠とした事実や事柄が、「確かでない」「客観的ではない」「妥当でない」それぞれ3つの例文を提示する。 ○前時に書いた学習プリントの「判断」の欄に、一つ一つ丁寧に検討しながら自己評価すること、また、情報社会の問題については客観的ではない事実もやむを得ないので、検討しなくてもよいことを指示する。 ○前時に挙げた根拠となる事実や事柄の内容を事前に把握し、机間指導をする。
6・7	○文末表現や接続語を工夫して意見と根拠を明確に示すことや、相手に効果的に伝わる語句を使い分けることで、分かりやすく説得力のある意見文になることを理解して、意見文を書くことができる。	説得力のある意見文を書こう。 ○例文7を読み、その問題点を考えて、文末表現や接続語を工夫することによって、意見と根拠を明確に示すこと、相手に応じた語句を使うことを理解する。 ○提示された条件にしたがって、構成メモをつくる。 【構成】 ・はじめ…情報社会の問題点と意見 ・なか …根拠の説明 ・おわり…意見の強調 【字数】 ・400字程度 ○意見文を書く。 ○本時の学習を振り返る。	<オー①> ○文末表現や接続語を工夫して意見と根拠を明確に示すことや、相手に効果的に伝わる語句を使い分けることで、分かりやすく説得力のある意見文になることを理解して、意見文を書いている。	○観察・発言・学習プリント 〈文末表現や接続語、相手に効果的に伝わる語句を適切に使いながら意見文を書いているか評価する。〉	○文末表現が曖昧、根拠であることが明確に示されない、分かりにくい難解な語句が使われた例文を提示する。 ○条件、構成メモ欄、原稿用紙が一体となっている学習プリントを準備する。 ○書き出しでつまずく生徒に、必要に応じて援助する。 ○辞書を適宜使って書くようにさせる。
8	○意見文を相互に読み合い、評価をしたり問題点を指摘し合ったりして、より説得力のある分かりやすい意見文を仕上げることができる。	意見文を見直して清書しよう。 ○各自が書いた意見文を生活班で交流し合い、評価及びアドバイスをする。 【観点】 ・根拠とした事実や事柄は適切か。 ・文末表現や接続語、語句の使い方は適切か。 ・文の成分の順序や照応は適切か。 ○指摘されたことをもとに自分の意見文を見直し、清書する。 ○単元の学習を振り返る。 ・「学習意欲や姿勢」「説得力をもたせるための技能」「情報社会への思い」について振り返る。	<オー②> ○根拠とした事実や事柄、文末表現や接続語・語句の使い方、文の成分の順序や照応について見直し、清書している。 <アー②> ○意見文を読み合い、それぞれのよさを自分の意見文に生かそうとしている。	○観察 〈仲間の意見文や評価、アドバイスを生かして、自分の意見文を見直して清書しているかを評価する。〉 ○観察 〈仲間のどのようなよさを生かそうとしているかを観察する。〉	○評価及びアドバイスの観点を提示する。 ○3つの観点について4段階評価をし、不適切なところを指摘し、できればアドバイスをすることを指示する。 ○感想用紙を一人一枚配布し、意見文を読んだ人に感想や評価を記入してもらうことを確認する。

4 単位時間の授業展開例

(1) 本時のねらい

- ・例文に対する反論を考えることを通して、根拠に説得力をもたせるためには確かで客観性・妥当性のある事実や事柄を選ぶ必要があることを理解し、確かさと妥当性の2観点から自分が意見の根拠としている事実や事柄が適切かどうかを正しく判断することができる。

(2) 本時の位置

5 / 8 時

(3) 展開案

過程	学 習 活 動	形態	評価について	指導・援助
導入	○前時に挙げた根拠とする事実や事柄は説得力があるかどうか考える。 ・分からない ・自信がない。 説得力のある根拠の条件を見付けて、自分の意見文の根拠を見直そう。	個人		
展開	○例文3・4・5を順に読み、根拠の内容に対する反論を考えて交流することで、説得力のある根拠の条件を見つける。 【例文3】 ・みんなが全く勉強していないかどうかは分からない。感じているだけである。 ・調べていないので正確ではない。 →根拠は、想像や予想でなく事実に基づいた確かなものにすること。 【例文4】 ・自分が一度見ただけで全部がそうだとはいえない。たまたま分別していないものを見ただけかもしれない。 ・多くの人はそうでないかもしれない。 →根拠は多くの場合にあってはまる典型的な(客観的な)ものにすること 【例文5】 ・「少しずつ低下」では根拠としては弱い。 ・週五日制になって二年なので、学力テストの結果は根拠にならない。 →根拠は意見としっかり結びついている(妥当な)ものにすること ○前時に書いた根拠となる事実や事柄を「確かさ」「妥当性」の観点から適切かどうか判断して、自己評価を記入する。 ①例文3・4・5を参考にして見直す。 ②二人の相手と相互に判断し合い、判断が食い違ったものについては説明し合う。 ③判断できないものがあれば、学級全体で出し合って考える。	個人 学級全体 個人 小集団 学級全体	＜ウー③＞ ○「確かさ」と「妥当性」の観点から、自分や仲間が意見の根拠としている事実や事柄が適切かどうかを正しく判断し、自己評価をしている。 ・観察、発言、学習プリント 〈3つの例文の根拠の問題点に気づき挙手できているか、また、自分や仲間が意見の根拠としている事実や事柄が適切かどうか、相互に説明し合いながら正しく判断しているか評価する。〉	○根拠とした事実や事柄が、「確かではない」「客観的でない」「妥当でない」それぞれ3つの例文を提示する。 ○他の理由を挙げて反対の意見を述べるのではなく、例文に書かれた根拠の内容に反論することを確認する。 ○なかなか問題となるところを見付けられない生徒にはそれぞれの問題点を改善した補助例文を示し、比較して考えるようにさせ、必要に応じてその違いを説明する。 ○例文3から順に発表させながら、その根拠の不適切な理由を確認し、学習プリントに記入させる。 ○前時に書いた学習プリントの「判断」の欄に、一つ一つの根拠を丁寧に検討しながら自己評価をすること、また、情報社会の問題については客観的ではない事実もやむを得ないので、検討しなくてもよいことを指示する。 ○前時に挙げた根拠となる事実や事柄の内容を事前に把握し、机間指導をする。 ○説得力のある意見文にするために、不適切な点について指摘することが相手のためであることを示唆する。
終末	○学習プリントに本時の学習の振り返りを記入し、発表する。	個人 学級全体		

5 評価の実際と個に応じた指導事例

(1) 本時重点的に取り上げた評価規準

<ウー③>

○「確かさ」と「妥当性」の観点から自分や仲間が意見の根拠としている事実や事柄が適切かどうかを正しく判断し、評価をしている。

(2) 個に応じた評価と指導の実際

【評価方法】 観察・発言・学習プリント

【判断した生徒の状況例と指導・援助】

「確かさ」と「妥当性」の観点から、自分や仲間の挙げた一つ一つの根拠としている事実や事柄について、仲間と相談しながらも適切かどうかを判断している姿を「おおむね満足できる」状況と判断した。また、判断できずに戸惑っている姿を「努力を要する」状況にあると判断した。この要因としては、
ア「確かさ」…・「確かさ」とは「事実に基づいた内容である」ということが理解できていない。

・思い込みや既成概念に邪魔され、書かれた根拠が想像や予想なのか、事実に基づいた確かなものなのかを判断できない。

イ「妥当性」…・「妥当性」とは「主張の根拠としてふさわしい内容である」ということが理解できていない。

・書かれた根拠が、主張の根拠としてふさわしいかどうかを判断できない。特に示された事実が自分に身近なものであったりインパクトの強いものであったりすると、よく考えずに納得してしまう。

が考えられる。

そこで、次のような指導・援助を行った。

①例文3・4・5に対する反論を考える際に、なかなか問題となるところを見付けられない生徒にはそれぞれの問題点を改善した補助例文を示し、比較して考えるようにさせ、必要に応じてその違いを説明した。これによって、例えば例文3で示された「最近のみんなは全く勉強をしていないように感じる」という根拠が本当にそうかどうか分からないために、根拠としては不十分であり説得力がないことに気付くことができた。

②自分や仲間が意見の根拠としている事実や事柄を検討する際に、判断ができずにいる生徒に対しては、例文3・4・5を振り返るようにさせた。また、前時に書いた一人一人の根拠としている事実や事柄を事前に把握し、それぞれ「確かさ」「妥当性」の2つの観点から検討しておいた。そのうえで、次のような個に応じた指導・援助を行った。

アについて判断できない生徒…書かれた根拠は、本当にそう言い切ってよいかどうか、それを裏付ける確かな事実はあるかどうかを考えさせる。

イについて判断できない生徒…意見と根拠とした事実や事柄がしっかりと結びついているかどうかを考えさせる。

H男は「テレビで人の悪口や人をばかにする内容を放送すべきではない」という意見に対し、その根拠の一つとして挙げた「先輩にボロクソに言われた若手芸人がやる気をなくしてしまうから」という内容について、**ア**の項目についての判断を迷っていた。そこで、「若手芸人がやる気をなくしたことはどこからわかったか」と問いかけ考えさせた。これにより、意見に説得力をもたせようとした根拠は「自

分だったらそう感じるだろう」という確かな事実に基づいたものではないことに気付き、不適切という判断をすることができた。

（３）授業後の評価

【評価の方法】 学習プリントの記述・単元テスト

【判断した生徒の状況例】

授業の終末で書いた学習プリント（資料４）の「本時の学習の振り返り」の記述及び学習プリント（資料３）の「Ａ」「Ｃ」欄の記述の内容で評価を行った。

説得力のある根拠の条件となる「確かさ」「妥当性」の意味を理解し、それに基づいて正しく判断することができたという内容の記述をしていること、あるいは、「Ａ」「Ｃ」欄の判断を教師による判断と重ねることにより、ほぼ正しくできたのとらえた生徒を「おおむね満足できる」状況と判断した。

Ｓ子は、前時に書いた根拠となる事実や事柄の判断をし始めたときには、「確かさ」についての判断にはすぐに取り組んだが、「妥当性」についての判断をできずに戸惑っていた。個別指導により例文を振り返りながら再度「妥当性」の説明をしたことや仲間と相談をし合ったこと、また、判断できなかったものを出し合って学級全体で考えたことにより、「妥当性」についてもほぼ正しく判断をすることができた。「本時の学習の振り返り」には、「今まで説得力がある意見文がどのようなものかよくわからなかったけれど、はっきりわかるようになりました。最初は、妥当性ということの意味がよくわからなかったけれど、先生や同じ班の子に教えてもらってわかりました。みんなにわかってもらえる意見文になるように、事実に基づいた根拠や主張とつながっている根拠にすることに気を付けたいです。自分の考えた根拠は少し事実に基づいていないものがあったので、別の根拠を考えたいと思います。」と書き、根拠に説得力をもたせる条件を明確に理解できるようになった。

さらに、単元終了後に「（１）条件に合った適切な主張や根拠が書かれているか」「（２）文末表現や接続語、語句の使い方、文の成分の順序や照応などの文の書き方は適切か」の２点を評価するペーパーテストを行った。それぞれ、優れている場合をＡ、１～２の問題がある場合をＢ、それ以上の問題がある場合をＣとして判断し、（１）（２）の両者がＡＡ・ＡＢ・ＢＡいずれかの場合を総合Ａ、ＢＢ・ＢＣ・ＣＢいずれかの場合を総合Ｂ、ＣＣの場合を総合Ｃと評価した。その結果、学級全体の４７％の生徒が総合Ａ、４４％の生徒が総合Ｂ、８％の生徒が総合Ｃであった。

資料 1

情報社会への提言 ～説得力のある意見文を書こう～ 一

三年 組 氏名

◆ 次の意見文を読んで、感想、納得できるかどうか、それはなぜかを書こう。

最近、パソコンや携帯電話が急速に人々の間に普及してきた。特に携帯電話は中学生どころか小学生でさえ持ち歩いている時代である。しかし、その急激な普及のため、人々がパソコンや携帯電話を上手に利用できていないという問題がある。

問題の一つに、パソコンや携帯電話のインターネットを通して得られる膨大な情報は有害なものばかりだが、簡単にその情報に接することができるといことがある。大人はもちろん、判断力のない小学生がそうした有害な情報に触れると犯罪に巻き込まれてしまう。出会い系サイトなどはそのよい例である。

また、メールやチャットなどで素性のわからない相手とやりとりをするのも恐ろしいことだ。うかつに相手を信じて自分のプライバシーを相手に教え、トラブルになることもあるだろう。例えば、かつてバスジャック事件を起こした十七歳の少年は、チャットで自分の考えを書き込んだ際に、他の参加者からずいぶん馬鹿にされ、それがあの事件の一つの引き金になったという。

さらに、利用料金の多さも問題だ。私は以前に携帯電話の利用料として五万円支払ったことがある。携帯電話やパソコンは確かに便利なものである。しかし、これほどの問題があるのだから、そろそろ、便利さを捨て、昔に戻ってみてはどうだろう。つまり、パソコンや携帯電話を使用禁止にするのである。

例文 1

◆ 単元の学習の計画

学習の目標

情報社会の問題について、説得力のある分かりやすい意見文を書いて、いろいろな相手に伝えよう。

① 情報社会の問題点とその実態や原因を考えて意見をもち、意見を伝える相手と方法を考える。

(2・3)

② 自分の意見の根拠を考える。

(4)

③ 説得力のある根拠にするための条件を学び、根拠を見直す。

(5)

④ 適切な語句を用いて説得力のある意見文(四〇〇字程度)を書く。

(6・7)

⑤ 書いた意見文を読み合い、評価をしたり問題点を指摘し合ったりして、意見文を推敲する。

(8)

⑥ 意見文をいろいろな相手に伝え、評価をもらう。

◆単元の学習に対する思いを書こう。

資料 2

情報社会への提言　　～説得力のある意見文を書こう～　　二

三年　組　氏名

本時の課題

情報社会の問題点に対する意見を持ち、発表の相手や方法を決めよう。

◆現代は「情報社会」であると言われますが、あなたたちが情報を得たり発信したりするもの（メディア）には、どんなものがあるだろう。

◆そのメディアやそれに関わる（使い方など）問題点にはどんなことがあるだろう。

◆あなたが意見文を書こうと思うメディアとそれに関わる問題点を決めよう。

【メディア】

【問題点】

◆選んだ問題点の詳しい実態、その原因を考えよう。

実 態	原 因

◆実態や原因を基に、あなたが意見文で主張しようとする意見を書こう。

◆その意見を、誰にどのような方法で伝えるか。

【相手】

【方法】

《例》

- | | | |
|------------------|---|--------|
| ○広く一般の人に | ↓ | 新聞への投書 |
| ○地域や保護者、家族に | ↓ | 学校報 |
| ○同じ中学校の生徒に | ↓ | 校内の掲示板 |
| ○選んだメディアに関係する会社に | ↓ | 手紙 |

◆今日の学習を振り返ろう。（態度・意欲、わかったこと、内容について考えたこと）

情報社会への提言　　説得力のある意見文を書こう　　三

三年　組　氏名

◆次の二つの文章を読み比べて、その違いを考えよう。

例文2

煙草を吸うのはやめるべきだ。

なぜなら、煙草は有害な物質を多く含んでおり、吸い続けることで病気になるやすいからだ。例えば、ガ
ンにかかる確率は吸わない場合の四倍以上だという。

煙草を吸うのはやめるべきだ。

父は一日四十本も吸うヘビースモーカーで、煙草がおいしいというが、私にはそれがどうしても信じられない。

◎説得力のある意見文にするためには…

本時の課題

説得力のある意見文するために、事実に基づいた根拠を考えよう。

◆例にならって、根拠となる事実や事柄をいくつか書き出そう。

《例》

【意見】　廊下を走るのは絶対にやめよう。

【根拠1】		【根拠2】		【根拠3】	
①廊下を走ると危険だから。		③他の人に迷惑をかけるから。		⑤廊下に置いてある物を壊してしまったり、ガラスを割ってしまったりするかもしれないから。	⑥
②先日、一年生が廊下で鬼ごっこをして走り回っていて、雨で濡れていたために滑って転んで怪我をしたという事故があった。		④角を曲がったときなど、勢いよく走ってくる人にぶつかりそうになり怖い思いをしたことが何度もあった。			

【意見】

								【根拠】
⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	
								A
								C

資料 4

情報社会への提言　　～説得力のある意見文を書こう～　　四

三年　組　氏名

本時の課題

説得力のある根拠の条件を見付けて、自分の根拠を見直そう。

◆ 次の各文を読んで、その根拠の内容に反論しよう。

例文 3

学習委員会では家庭学習時間の向上キャンペーンを始めます。
なぜなら、調べたわけではないのですが、最近のみんなは全く勉強をしていないように感じるからです。このままでは、どんどん成績も悪くなってしまいます。

A 根拠には

ものを使おう。

例文 4

ゴミの分別をもっと徹底させる法律をつくるべきだ。
なぜなら、昨日のゴミ出しの日に、僕が見かけた一般ゴミの袋の中には金属やガラスの破片がたくさんあったからだ。

B 根拠には

ものを使おう。

例文 5

学校週五日制になって二年が過ぎたが、この制度は廃止すべきだ。
なぜなら、週五日制にしたことで学力が低下しているからだ。事実、ここ十年ほどの学力テストの平均は少しずつ低下しているのだ。

C 根拠には

ものを使おう。

◆前時に書いた根拠に説得力があるかどうか、判断しよう。

◎ A・C の2つの観点で一つ一つを判断し、○×をつけよう。

①個人で

②二人の仲間と

③どうしても判断できないものは学級の仲間に相談しよう

◆今日の学習を振り返ろう。(態度・意欲、わかったこと、内容について考えたこと)

情報社会への提言　　説得力のある意見文を書こう　　五

三年　組　氏名

本時の課題

説得力のある意見文を書こう。

◆次の例文を読んで、その問題点を考えよう。

例文6

学校の授業や家庭で学習するときは、シャープペンシルを使うほうがいいかもしれない。何しろ最近のシャープペンシルは値段が安く、長持ちするので鉛筆よりずっと経済的な面もあるし、そして、芯の太さが一定だから書きやすいと思うときもあるし、そして、いちいち削らなくてもノック一つで疾風迅雷のごとく書けるから、とても使いやすいと思うから、みんなもこれからはシャープペンシルを使うようにした方がいい。

◆別紙（六）の条件で、構成メモをつくり意見文を書こう。

◆今日の学習を振り返ろう。（態度・意欲、わかったこと、内容について考えたこと）

情報社会への提言
く説得力のある意見文を書こうく 六

三年組氏名

◆意見文の条件

○相手……
(

○方法……

—

○目的……情報社会の問題について相手に納得してもらい、よりよい生活を送るため

○字数……四○○字程度

○構成……【はじめ】↓自分が考える情報社会の問題点と意見を簡潔に述べる。

【なか】 ↓意見の根拠を詳しく説明する。

【おわり】 ↓意見をさらに強調して述べる。

[illegible]

◆お互いの文章を読んで、評価し合おう。

〔①根拠の適切さ〕〔②文末表現や接続語・語句の使い方〕〔③文の成分の順序や照応〕A B C Dで

	①		①		①		①
	②		②		②		②
	③		③		③		③
()より		()より		()より		()より	

資料 7

情報社会への提言　く説得力のある意見文を書こうく　七

三年　組　氏名

◆単元の学習を振り返ろう。

◎学習に対する意欲・姿勢

◎この単元で身に付けた知識・技能

◎情報社会について考えたこと

◆外部の人から、自分の意見文に対する評価をもらおう。

意見文の題

--

◆この意見文を読んで、私の意見に納得していただけましたか。文章の書き方としてはどんなところがよかったですか。また、直すとよいところはどんなところですか。

◆私の意見文を読んでのご意見をお聞かせください。

情報社会への提言

～説得力のある意見文を書こう～

九

テスト

三年（ ）組 氏名（ ）

—

現代の情報社会には様々な問題がある。その中から一つ問題を取り上げて、自分の意見を書きなさい。

【相手】 広く一般の人々に

【目的】 人々が情報社会をよりよく生きるために

【字数】一六〇字以上二〇〇字以内

【文体】常体でも敬体でもよいが、統一すること

【構成】 二段落構成

1段落：自分の主張（意見）を書く

2 段落…その根拠を書く

【内容の条件】

- ・主張は問題解決の方向性を示すものにする

根拠は具体的な事実や体験を使い、確かで妥当性のあるものにする

取り上げた問題

A blank graph paper with a grid of solid vertical lines and dashed horizontal lines. The vertical axis is labeled 10, 8, 5 from top to bottom. The horizontal axis is labeled 10, 5 from left to right. The grid is 10 units wide and 20 units high.

(1) 条件に合った適切な主張や根拠が書かれているか。

↓十分満足できる…A おおむね満足できる…B 努力を要する…C

(2) 文の書き方は適切か。

・文末表現や接続語、語句の使い方 ・文の成分の順序や照応

↓十分満足できる…A おおむね満足できる…B 努力を要する…C

(2)	(1)